

環境経営レポート

2019

絵画の紹介

<タイトル> アマビエさん

早くコロナがいなくなって、安心してくられますように。



障がいのある方が描いた絵です。
(提供 / 夢のかけら舎)

2020年8月発行

第16版：2019年3月～2020年2月実績



(株)グリーンロジスティクス
e-style camp



環境経営方針



経営理念

1. 地域環境コミュニケーションの形成

廃棄物処理事業活動を通じて地域社会に豊かな環境コミュニケーションを形成します。
これにより地域社会の一員として地域のあらゆる要望に対して、私達の企業資源の全てを活用して「私達らしく」応えられる企業であり続けます。

2. 学習型企业への発展

全社員が主役の会社を目指します。
社員の創意工夫や自主性が十分に発揮できる社風を創り、働く環境の中から互いに学びあい尊重しあい、活力に満ちた心豊かな人間集団としての学習型企业を目指します。

環境経営方針

基本理念

株式会社 グリーンロジスティクスは、廃棄物の中間処理・収集運搬業務を通じて、人と環境が調和し、共存できる循環型社会への構築に向けての地域環境保全に努めます。

行動指針

1. 環境負荷の低減を目指し、重要項目として下記の項目に重点を置き、計画的・継続的・効果的なCO2削減活動を行います。

- ① 収集運搬車両及び重機等による燃料使用量の削減
- ② 産業廃棄物リサイクル率の向上
- ③ 水光熱使用量の削減
- ④ 再生可能エネルギーの生産・供給
- ⑤ グリーン商品の積極的購入及び資源の有効活用

2. 全社員が、地域社会における役割と責任を認識し、地域融和活動に努めます。

- ① 第一に私達は、地域社会の一員であることを自覚します。そして、地域に対して「役立ちたい」というもっとも高い価値観を共有します。
- ② 地域の企業・環境団体や行政との連携を深く図り、地域が参加できる環境保全活動を企画・実践します。そして、知識・情報を共有し環境ネットワークづくりに努め、地域社会にも広く発信します。

3. 環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守します。

4. あらゆる人に環境レポートを公開し、地域環境コミュニケーションの形成のための協力と理解を求めます。

制定日 2005年5月1日
 最終改訂日 2018年4月1日
 株式会社 グリーンロジスティクス
 代表取締役 岩崎 浩



事業概要 1

◆事業名称及び代表者名

株式会社 グリーンロジスティクス 代表取締役 岩崎 浩

◆所在地

- ◇管理事務所 熊本県菊池郡大津町杉水 2506 番地
- ◇圧縮梱包棟及び選別・破碎棟 熊本県菊池郡大津町杉水 2509 番地 1

◆資本金

1000 万円

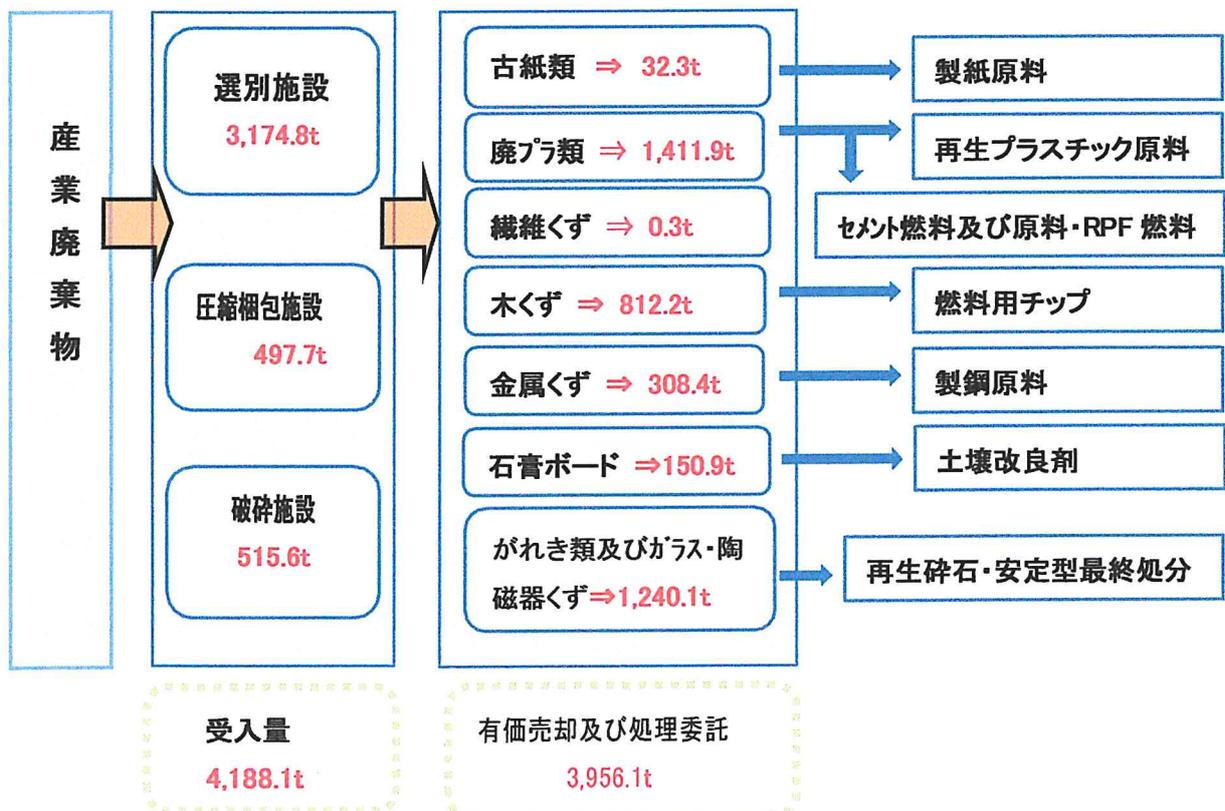
◆設立

1992(平成 4)年 12 月 21 日

◆事業内容

- ◇一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業
- ◇産業廃棄物中間処理業(選別、破碎、圧縮・梱包)
- ◇有価物(古紙・再生樹脂・金属くず)の回収・加工・販売

中間処理施設の処理フローとマテリアルバランス



事業概要 2



◆許可内容

NO	許可の種類	自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
1	一般廃棄物収集運搬業	大津町	第 10 号	2020.4.1	2022.3.31
2		菊池市	第 8 号	2019.4.1	2021.3.31
3		合志市	第 16 号	2019.4.1	2021.3.31
4		菊陽町	第 380 号	2020.4.1	2022.3.31
5		益城町	第 20-8 号	2020.4.1	2022.3.31
6		西原村	第 4865 号	2019.4.1	2021.3.31
7	一般廃棄物処分業	大津町	第 64 号	2019.4.1	2021.3.31
8	産業廃棄物収集運搬業 (積替え及び保管行為含)	熊本県	第 04310008464 号	2019.1.11	2022.9.8
9	産業廃棄物処分業		第 04320008464 号	2019.5.7	2023.9.29

※2013.5.16 熊本県より「優良産廃処理業者」に認定

※2019.1.11 事業範囲の変更許可

◆産業廃棄物処分業(熊本県)

◇事業の全体計画

排出事業所から排出された産業廃棄物を搬入し、計量後、処理前保管場所にて保管する。その後、機械選別ライン・破砕機・圧縮梱包機にて、それぞれ処理を行う。

その後は、処理後保管場所に保管し、有償売却、又は処理委託する。

◇処分する産業廃棄物の種類等

(選別・破砕・圧縮梱包) 廃プラスチック類 60t/月・木くず 50t/月・金属くず 6t/月
がれき類 20t/月・紙くず 2t/月・繊維くず 0.5t/月・混合廃棄物 150t/月
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 20t/月・ゴムくず 0.1t/月・

◆産業廃棄物収集運搬業(熊本県)

◇事業の全体計画

排出事業者から収集運搬の委託を受けた産業廃棄物の自社中間処理施設をはじめ、他の処理施設に運搬する。

◇収集運搬する産業廃棄物の種類等

- ① 廃プラスチック類・木くず・金属くず・紙くず・繊維くず・ゴムくず⇒360t/月
- ② ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず⇒50t/月
- ③ がれき類 50t/月
- ④ 動植物性残渣 10t/月
- ⑤ 燃え殻・ばいじん 1t/月



事業概要 3

◆施設等の状況

◇運搬車両の種類と台数

8tクラム車 1 台・4tアームロール車 2 台・2tアームロール車 1 台・4tユニック車 1 台・
3tユニック車 1 台・4tパッカー車 3 台・3tパッカー車 5 台・2tパッカー車 1 台・その他 1 台
合計 16 台 (内 8 台 燃費基準達成車)

◆施設の種類と処理する廃棄物の種類、処理能力他

◇選別施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、がれき類、コンクリートくず
及び陶磁器くず、廃プラスチック類
- ・処理能力 15t/日(8h)
- ・処理方式 手選別及び機械選別ライン

◇破碎施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
紙くず、木くず、繊維くず、廃プラスチック類
- ・処理能力 紙くず 4.3t/日(8h)、木くず 4.2t/日(8h)、繊維くず 4.8t/日(8h)
廃プラスチック 3.3t/日(8h)
- ・処理方式 破碎機

◇圧縮・梱包①施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
紙くず、繊維くず、金属くず、廃プラスチック類
- ・処理能力 紙くず 73.6t/日(8h)、繊維くず 83.2t/日(8h)、金属くず 244.8t/日(8h)
廃プラスチック類 65.6t/日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

◇圧縮・梱包②施設

- ・処理する産業廃棄物の種類
紙くず、金属くず、廃プラスチック類
- ・処理能力 紙くず 2.9t/日(8h)、金属くず 10.8t/日(8h)、廃プラスチック類 3.4t/日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

◆会計年度及び環境年度

毎年3月1日から翌年2月末日

◆情報公開

- ◇(株)グリーンロジスティクス ホームページ ⇒ [http:// greenlogistics.co.jp/](http://greenlogistics.co.jp/)
- ◇産廃情報ネット情報開示システム ⇒ <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>

事業概要 4



◆事業の規模

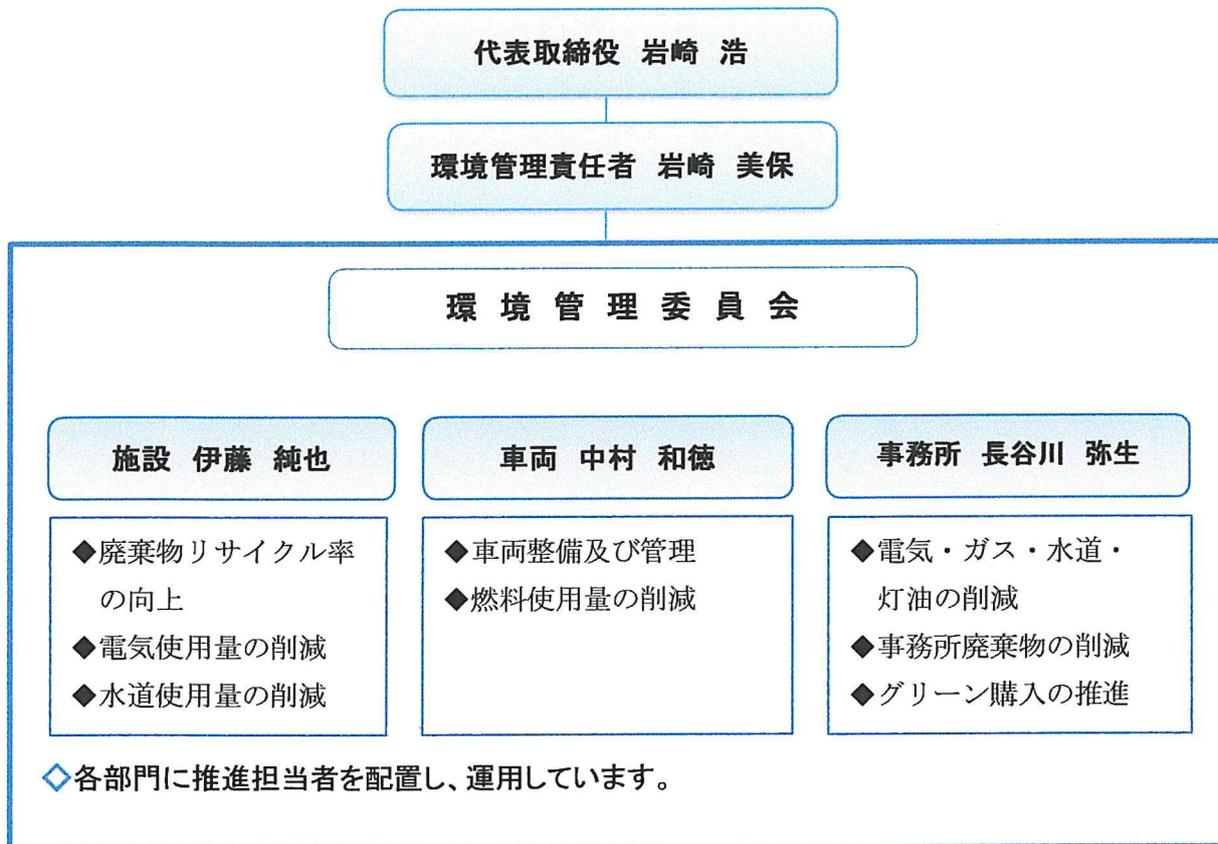
活動規模		単位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
売上高		百万円	338	360	381	430	466	403	391
廃棄物取 扱量 (有価物含)	収集運搬	t	12,947	13,215	13,137	12,748	12,240	12,240	11,549
	中間処理	t	6,684	6,786	7,489	7,635	7,695	7,497	7,429
従業員数		人/年	27	30	33	35	36	32	30
敷地面積		m ²	4,999	4,999	4,999	4,999	6,342	6,342	6,342
車両台数		台	18	17	17	17	17	16	16

* 2017年度 既存事業地の拡張

環境マネジメントシステム



エコアクション 21 組織図



☆環境管理責任者の連絡先 (096)293-0743

環境経営目標と実績及び評価



◆環境目標と実績及び評価

環境目標	単位	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 目標	2019年度 実績	評価	2020年度 目標	2021年度 目標	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /百万円	1,051	757	750	767	✖	760	750	
購入電力量	kw h	51,129	52,190	52,000	10,676	✖	10,500	10,400	
購入動力量					44,083				
太陽光発電量	kw h	88,502	87,614	88,600	82,193	—	83,000	83,000	
化石燃料	1) 灯油	L	177,076	109,141	120,000	108	○	105	105
	2) ガソリン					2,737		2,700	2,600
	3) 軽油					102,912		102,000	101,000
	4) 液化石油ガス (LPG)	kg	114	93	88	81	○	80	80
水資源使用量	m ³	1,334	985	980	1,371	✖	980	975	
事業所からの廃棄物排出量	kg/人	8.7	9.6	8.7	9.6	✖	8.7	8.7	
グリーン購入の推進 (事務用品)	%	67.8	74.1	70.0	68.1	✖	70.0	70.0	
リサイクル率の向上	%	75.4	76.1	70.0	72.6	○	70.0	70.0	

○二酸化炭素排出量については、収集運搬車両及び重機の稼働による軽油の割合が高く、業務の量により変動するため、売上百万円当たりの数値で環境目標を設定した。

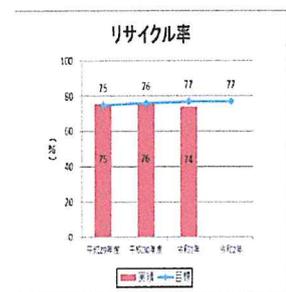
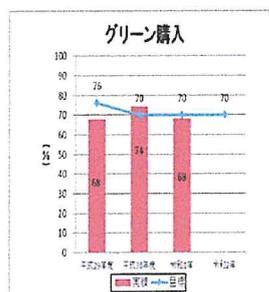
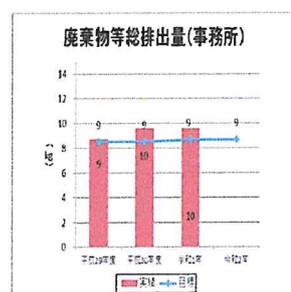
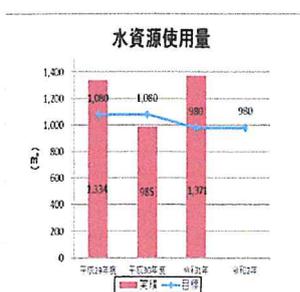
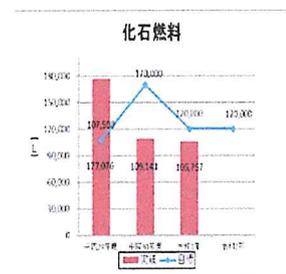
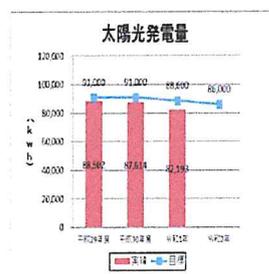
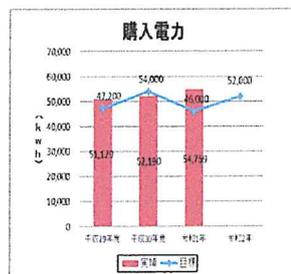
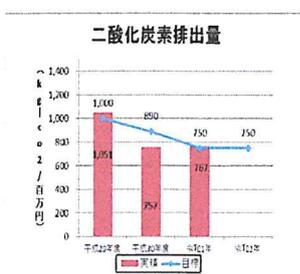
○購入電力の排出係数(調整後排出係数)については、2018年度実績の新出光 (0.511kg-CO₂/kwh) 及び九州電力 (0.463kg-CO₂/kwh) を使用した。

○購入電力については、破碎機等の稼働による動力使用量の割合が高くなるため、比較をしやすくするため、2019年度実績より電力と動力に分けた。

○購入電力との比較ができるよう太陽光発電量を記載した。

○当社の業務は、廃棄物の収集運搬及び中間処理業なので、中間処理業で取扱う廃棄物に係るリサイクル率 (70%以上) で環境目標を設定した。

○震災後の2017年度の実績を参考に令和元年度以降の目標の見直しを行った。



環境経営計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容1



◆環境活動計画の取組み内容とその評価及び次年度の取組み内容

○二酸化炭素排出量の削減		
取組み項目	取組み内容	評価
電気・電力使用量の削減	①未使用部屋・パソコン等のこまめな電源の入切の徹底	○
	②エアコンの温度設定を、夏季は一定にし冬季は原則エアコンは使用せずヒーター等で代用する。	○
	③Cool-Biz及びWarm=Bizの推奨	○
	④破砕機・プレス機等の効率的な使用 【次年度の取組み】 破砕施設の取扱量が前年度より100 tの増加により、目標の達成には至らなかった。今年度から動力と電力の実績を出すことにより、次年度はそれぞれに目標数値を設定し、効率的な使用に努める。	×
	⑤太陽光発電システムによる再生エネルギーの生産性を高めていく。 【電力使用量との比較】 電力使用量に対しての発電量は賄えているが、平成26年にパネル設置以降降灰が主な原因で徐々に発電量が減少してきたため、12月にパネルの洗浄を行った。 それにより12月～2月までの発電量が前年比約2,800kwh増加した。 今年度電力使用量 54,759kwhに対して、太陽光発電量 82,193kwh	—
灯油・ガス使用量の削減	①給湯室のガスコンロは、最小限度の使用に努める。 ②ヒーターのこまめなフィルター清掃	○
軽油・ガソリン使用量の削減	①エコドライブ講習会の実施	○
	②タイヤ点検講習会の実施	×
	③重機運転・メンテナンス研修会の実施 【次年度の取組み】 欠員状態が続く中、計画していた講習会や研修会が予定通りできなかった。次年度については役割分担を明確化し、毎月実施状況を確認する。	×
	④計量器による積載量のチェックを行うことにより、過積載をなくし燃料使用量削減の向上に努める。	○
	⑤処理委託先及び有価物の売却先への輸送を4 t車から大型車両に変更することで、燃料使用量を削減する。	○

* 評価『○』の項目に関しては、次年度も引き続き取り組みを継続する。



*スーパーの導入(令和2年2月)

- ・ 粉塵の抑制
- ・ 水使用量の削減
- ・ 4人で30分要した施設清掃が1人で15分になることで効率アップ・労働時間の短縮につながる
- ・ 体力年齢等関係なく誰でも操作できる
- ・ 接道面の清掃を行うことにより地域へ貢献

環境経営計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容2



◆環境活動計画の取組み内容とその評価及び次年度の取組み内容

○水使用量の削減		
取組み項目	取組み内容	評価
節水努力	①洗車時は高圧洗浄機を使用する。	○
	②ホースにストッパーを取付ける。	○
	③定期的な漏水点検	*
	【次年度の取組み】	
	夏場の散水量が前年度に比べかなり多かったことや、冬場の凍結による水道管の破裂での漏水が、使用量増加の原因の1つとなった。 年度末にスーパードライを導入により、次年度は水使用量の削減を行う。 定期的な漏水点検と季節ごとの使用の仕方などを徹底する。	
④水の出しっぱなしをしない。	○	

○事業所からの廃棄物排出量の削減		
取組み項目	取組み内容	評価
3Rの推進	①可燃・不燃・ビンカン・ペットの分別の徹底	*
	【次年度の取組み】	
	従業員数が若干減少したにもかかわらず、排出量は増加した。 分別BOXは設置しているが、ビンカン類の排出量が増加したため、全体の排出量増加につながってしまった。 毎月自宅へ送付する通信での啓発も定期的に続けていく。	
	②プラスチック類の分別	○
	③紙類の分別（上質紙・雑紙・新聞・シュレッダー）	○
	④社内コピーの裏紙活用	○
	⑤ファクシミリ受信時、パソコン画面で確認し、必要なものだけ印刷する。	○

○グリーン購入の推進		
取組み項目	取組み内容	評価
グリーン購入の推進	①文具品は詰め替ええきるものを使用する。	○
	②OA用紙等の再生商品の利用	○
	③セパブル封筒を採用	○
	④定期的な発注により在庫管理を行い、無駄のない購入をする。	*
	【次年度の取組み】	
	特注のゴム印等やドットプリンター用のインクリボンなどの消耗品を購入した月が目標を下回り、結果年間の目標も至らなかった。 無駄のない計画的な購入に、より重点をおいていく。	
循環資源の使用	①フレコンバックの再利用	○

○リサイクル率の向上		
取組み項目	取組み内容	評価
効果的な再資源化	①大型の破砕機の効率的な稼働	*
	【次年度の取組み】	
	破砕機による取扱量が前年比約100t増加したため、効率的には上がったが電力使用量は増加した。 今年度は重機の故障も多かったため、日ごろのメンテナンスや無理のない使用などを心掛けることにより、効率よい稼働をを行い、リサイクル率の向上に努める。	
	②圧縮・破砕・選別により、付加価値を高めた再資源化に努める。	○
	③排出事業者に対し、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う。	○
	④社内において廃棄物の分別及びリサイクル研修を計画的に実施	○

*評価『○』の項目に関しては、次年度も引き続き取り組みを継続する。

教育・研修実施計画及び実績記録



◆適正処理及び環境に係わる教育・研修実施計画表 (R1年3月～R2年2月)

分類	講習会・研修会・勉強会	対象グループ	具体的内容	計画時期	実施日
1 環境教育関係	車両運行前点検等研修会	一般廃棄物収集運搬グループ	1.点検の重要ポイント	随時	随時
			2.故障時の対処方法	(新入社員研修時)	(新入社員研修時)
	エコドライブ研修会	外部より講師を招いての勉強会	1月	1月18日	
	タイヤ点検講習会	産業廃棄物収集運搬グループ	安全且つ、環境に配慮したタイヤ選び、タイヤ点検法を学ぶ	6月	*1
	重機運転・メンテナンス研修会		環境及び安全運転上の注意事項と安全衛生法について学ぶ	6月・10月	
	安全運転講習会		外部より講師を招いての勉強会招いての危険運転防止について学ぶ	7月	
リスクアセスメント会議		あらゆるリスクを想定し、意見交換をする	毎月	毎月1日	
2 環境上の緊急事態の訓練等関係	消防訓練	全グループ	緊急事態を想定し、実際に沿った訓練を行う	3月	4月12日
	廃油・排水・汚水流出を想定した訓練	全グループ		2月	2月15日
3 外部からの苦情等関係	社内勉強会	全グループ	苦情等が発生した場合、随時 各グループにてその原因と是正を話し合う	随時	7月4日 7月24日
	グループ長会議	各グループ長	各グループからの吸い上げを基に、協議・報告	随時	9月22日
4 環境関連法規関係	廃棄物適正処理講習会	全グループ	「廃棄物の処理と方法」「指導要綱」をテキストに用い、勉強会を行う	6月	業務部6月19日 /1月20日
			1.処分と収集運搬の許可基準		産廃・一廃収運 4月15日/6月10日 施設 6月10日
			2.排出事業者責任について		
			3.契約書について		
			4.県や環境省からの通達事項の確認		
5.リサイクル率向上について					
5 問題の是正処置及び予防処置関係	社内勉強会	全グループ	問題が発生した場合、随時 各グループにてその原因と是正を話し合う	随時	随時
			定期的なミーティングにより、気づきを挙げ、解決していく		
	グループ長会議	各グループ長	各グループからの吸い上げを基に、協議・審議・報告を行う	随時	随時

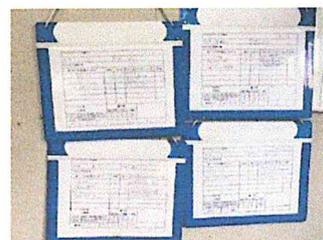
*1Xについては、欠員状態で計画を持って実施することができなかった。次年度は、毎月各担当に実施状況を確認し徹底して行っていく。



エコドライブ講習会



消防訓練



リスクアセスメント

地域環境コミュニケーション 1



◆近隣小学校と環境出前講座を継続して行っています。

大津町立護川小学校に対して、セーフティボランティア及びコミュニティスクールの推進活動に継続参加しています。

また、小学校において、弊社の所属団体の熊本県産業資源循環協会主催の環境出前講座が行われ、弊社より講師を務めています。

(令和元年 10 月 大津町立美咲野小学校・大津町立護川小学校)



◆大津町の障がい者就労支援施設より会社見学に来られました。

大津町の障がい者就労支援施設すまいる様より、廃棄物について学ぶため、7 月 19 日に会社見学に来られました。



◆収集先の園児たちにいただきました。



環境関連法規等の遵守状況



◆環境関連法規

該当する廃掃法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法、土壌汚染対策法、消防法、フロン排出抑制法、水銀汚染防止法に違反及び訴訟はなかった。

◆条 例・要綱

違反及び訴訟はなかった。

◆要求事項(クレーム)

重大なクレーム等はなかった。

◆主な改正のポイント

法令名		改訂・改正等	ポイント
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	平成31年3月	1) 水銀使用製品廃棄物の追加 2) 廃水銀等を排出する特定施設の改正	水銀に関する水俣条約の的確かつ円滑な実施を確保
	令和元年10月	8月～9月の大雨による災害により必要となった一般廃棄物の特例に関する施行について(通知)	家屋等の損壊によるコンクリートの破片等を含む廃棄物の迅速かつ円滑な処理を進めるための特例措置
	令和元年11月	台風19号及び21号による災害により必要となった一般廃棄物の特例に関する施行について(通知)	
水質汚濁法	平成31年3月	水質汚濁に係る環境基準の改定	新たに6製品の追加と2製品の用途の内容の追加 人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準
その他通知等	平成31年3月	持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化	将来にわたり持続可能な適正処理を確保していくための広域化・集約化に係る計画の策定と安全的かつ効率的な廃棄物処理体制の構築の推進
	令和元年6月	漂流ごみ等の処理体制構築等について	「新たな汚染を生み出さない世界」の実現を目指した取り組み「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」の策定。適正処理の徹底・ポイ捨て・不法投棄・非意図的な海洋流出防止・散乱・漂着ごみの回収・イノベーションによる代替素材への転換・途上国支援・実態把握などの取り組み
	令和2年1月	新型コロナウイルスに関連した感染症対策について(通知)	感染性廃棄物の適正処理の確保 収集運搬時及び処分時における作業員への感染防止



代表者による全体評価と見直し

◆環境経営方針

新たに経営理念を組み込むことにより、会社の経営と環境に対する方向性を明確に示した。

◆環境マネジメントシステム

次年度は新たな環境管理責任者を中心とし、全員参加型のより効果的な活動を計画的に行う。

◆環境経営目標・環境経営活動計画及び取組結果の実績と評価

環境目標の実績と結果及び環境活動計画は、環境活動レポートの記載の通り。
2020年度については、同様の環境活動計画とし、計画通り実施していく。

◆次年度の見直し

1. 破碎を要する廃プラスチックの取扱量が今後も増える見込みです。
重機の増台及びリフトの入れ替えなどを行い、省電力及び効率的な運転作業に努めます。
2. 最終処分先までの輸送を4t車から大型車両に移行し、軽油の使用量を削減します。

◆その他

1. 上記の課題が解決できるよう、環境委員会の意見も反映した施設づくりと効率的な収集運搬と最終処分先までの輸送をおこないます。
また、今年度できなかった講習会等に関しては、計画的に確実に実施します。
2. 全国的に産廃優良認定業者の事故が増加しております。社会的責任の重大性を認識し、地球環境への配慮を常に念頭に置きながら、適正処理の徹底・コンプライアンスの確立に向けより一層努力して参ります。
3. コロナ禍の中、同業他社との協力・共存の体制を構築し、地域の非常事態に対しても貢献できるように努めます。

2020年7月1日

株式会社グリーンロジスティクス
代表取締役 岩崎 浩

これまでの取組 1



◆施設及び車両

- ・2004年 9月 熊本県産業廃棄物処分業許可(選別)を取得
- ・2006年 3月 エコアクション 21 認証取得
- ・2008年～ 関連会社(有)百式にてバイオディーゼル燃料の精製事業を行う
2017年



- ・2010年 2月 産業廃棄物の圧縮・破碎施設増設
- ・2010年 6月 熊本県産業廃棄物処分業許可(破碎及び圧縮・梱包)を追加取得
- ・2010年 8月 産業廃棄物の機械選別ラインを新設
- ・2010年 12月 発泡スチロール減容機を導入
- ・2013年 5月 熊本県より優良産廃処理業者の認定を受ける
- ・2014年 2月 太陽光発電システム(84kw)を設置
- ・2015年 4月 発泡スチロール減容機を増設
- ・2017年 9月 産業廃棄物の選別施設を移設拡張及び破碎施設の増設



- ・2018年 1月 大津町一般廃棄物処分業の許可を取得
- ・2019年 1月 水銀使用製品産業廃棄物及び石綿含有産業廃棄物の積替え保管の許可取得
- ・2019年 2月 スーパーの導入

◆行政及び環境団体との連携

- ①環境ボランティアグループ 4R 白川が行っている、小学校を回収場所とした年 4 回の集団回収と子ども達への環境教育への参加。
- ②大津町の団地内の指定場所に廃油回収 BOX を設置し、月 1 回の回収を行った。
- ③大津町女性の会「菜の花コンサート」への参加
- ④「からいもフェスタ」に参加
- ⑤「菜の花パトロール」などのボランティア活動で得た地域通貨「水水」を町指定のごみ袋に替えて、小学校や地元杉上区へ寄贈



◆地域環境コミュニケーション

- ①2008 年度より ・朝のスクールゾーンでの交通安全誘導とバイオディーゼル燃料を活用した菜の花パトロール
 ・地域住民の不燃物等をボランティアで引取
 地域環境活動への積極的参加



- ②2009 年度より ・近隣小学校との環境学習会

